

（仮称）伏古本町・札苗地区再編小学校新築ほか工事基本設計

第1回新築検討協議会

2025/9/26

■ 計画地

住 所: 札幌市東区伏古8条5丁目2-1
敷地面積: 13,170㎡
用途地域: 第二種中高層住居専用地域

■ 周辺の状況

敷地外周部は4面とも道路に面しており、各道路幅員は8m程度です。学校の北側には、中高層のマンションが近接し、全体的に戸建て住宅・共同住宅が広がっています。南側は、幹線道路である宮の森・北24条通が位置していますが、学校周辺の通行車両は比較的少ない状況です。一方で、敷地沿いの歩道幅が狭いことや、排雪状況も十分ではないことから、登下校時の安全確保の面で課題がある環境です。



【 既存建物配置 】

■ 現況敷地及び建物

- ・現在の校舎は昭和54年に鉄筋コンクリート造地上4階建てで建設し、屋内運動場は渡り廊下で接続しています。
- ・校舎は敷地南側、プールは敷地東側、グラウンドは敷地北側に位置しています。
- ・校舎の主出入口は南側となっています。
- ・主出入口面以外には、フェンスや塀壁が設置されており、敷地境界で大きな高低差が存在する箇所があります。
- ・グラウンドは、流域貯留浸透施設として整備しています。

■ 施設計画概要

既存施設

- ・校舎 : 約6,450㎡
- ・屋内運動場 : 約 970㎡
- ・プール棟 : 約 620㎡

改築施設

- ・校舎 : 6,429㎡
- ・屋内運動場 : 1,368㎡
- ・児童会館 : 450㎡

■ 整備諸室

①校舎棟

- ・普通教室 : 13教室
- ・特別支援学習室 : 5教室+プレイルーム
- ・特別教室 : 7教室(理科室、家庭科室、図工室、第1音楽室、第2音楽室、図書室、教育相談室)
- ・余裕教室 : 3教室(特別活動室、生活科室、会議室)
- ・多目的室 : 3教室(一般、ICT対応、少人数対応)
- ・管理諸室 : 職員室、校長室、印刷室、保健室、用務員室、職員更衣室(男女別)、教材室、物品庫、除雪機置場等
- ・その他 : 昇降口、PTA室、郷土資料室、備蓄庫、ポンプ室、機械室、給食室、配膳車置場、エレベーター、トイレ(男子用、女子用、共用、多目的、職員用)

②屋内運動場

- ・アリーナ、器具庫、更衣室(男女別)、体育準備室、開放用玄関、指導員控室

③屋外環境施設

- ・教材園、グラウンド用物置

④児童会館

- ・事務室、集会室、遊戯室(プレイルーム)、クラブ室、多目的ホール

■ 配置計画のポイント

「小学校施設整備指針(文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部)」、「(仮称)伏古本町・札苗地区再編小学校新築ほか工事基本計画」及び敷地の周辺環境や現状建物配置等から、施設配置計画を進めるための前提条件を整理します。



1) 安心・安全で機能的な学校

- ・給食運搬車、管理車両の動線と児童の動線を分離すると共に歩道の安全確保を行います。
- ・屋内運動場は緊急避難施設としての機能性に配慮します。



2) 周辺環境との調和

- ・周辺環境への日影が最小限となるよう配慮した校舎とします。
- ・普通教室及び特別支援学習室は日照に配慮し、南面・東面から採光可能な配置とします。
- ・伏古本町地区に調和する校舎デザインとします。



3) 屋外環境

- ・グラウンドは最大限の面積を確保します。
- ・流域貯留浸透施設を設置します。
- ・十分な数の施設利用者用の駐車場を整備します。



4) 経済性

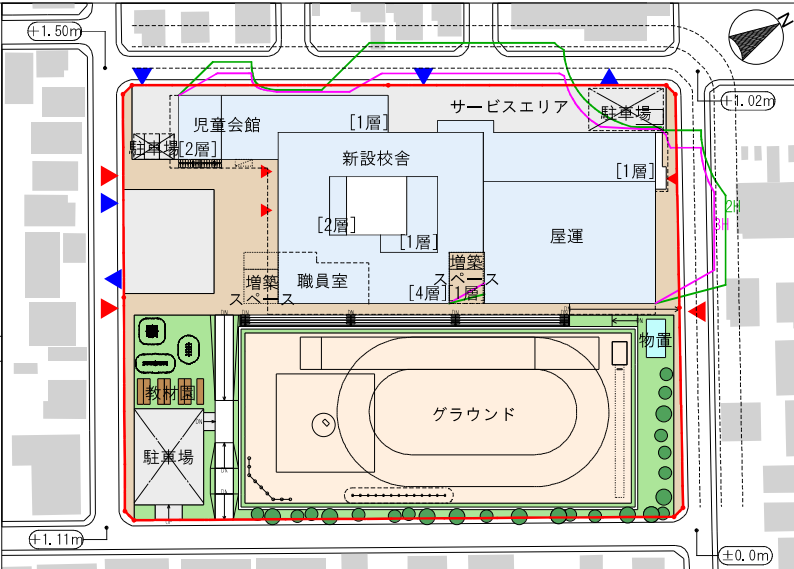
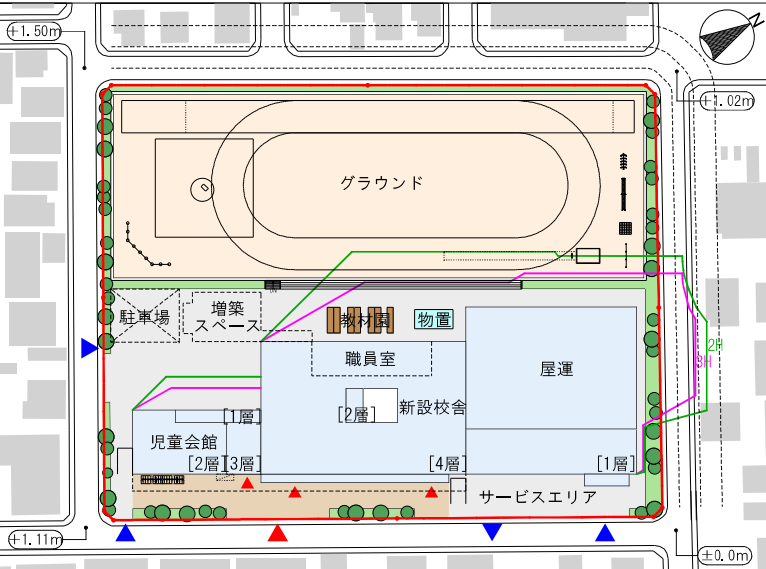
- ・仮設校舎の有無、工事規模、階数など、経済性に配慮した配置とします。
- ・与条件を満たすコンパクトな計画とします。



5) 工期・施工計画

- ・児童の学習、活動への影響が最小限となるよう配慮した工期、施工計画とします。
- ・工事中の児童への安全性を確保した工期、施工計画とします。

■配置比較表

	A案(校舎・屋運同時建設案)				B案(仮設校舎建設案)			
配置図								
凡例	▲ 利用者出入口 ▲ 車両出入口 — 2時間日影線 — 3時間日影線 □ 校庭範囲 (***m) 周辺の地盤面高さ							
比較項目	特徴				特徴			
グラウンド	○	・50mレーンは校舎と平行に配置 ・日当たりが良く雪が解けやすいグラウンド	面積	5,952㎡	○	・100mレーンは校舎と平行に配置 ・グラウンドが一部日影となり、雪解けが遅い	面積	6,181㎡
近隣への影響	○	・北側への日影に配慮(北側境界との離れを確保・北側の高さを抑える)			○	・近隣への日影の影響が少ない ・南東、南側住宅と校舎がやや近接		
学習環境	○	・1階に職員室、2～4階に普通教室を配置 ・職員室から登下校の様子とグラウンドの両方を見渡せる			△	・2階に職員室、2～4階に普通教室を配置 ・職員室からグラウンドが見渡せる		
昇降口	○	・歩車分離：あり(昇降口と車両出入口が別の面) ・昇降口前広場を整備し、生徒の混雑緩和、道路への飛び出し防止に配慮			×	・歩車分離：なし(昇降口と車両出入口が同じ面) ・昇降口前に確保できる空間が狭小		
児童会館の配置	○	・昇降口に隣接し、道路から出入口の視認性がよい			○	・昇降口に隣接し、道路から出入口の視認性がよい		
災害配慮項目	○	・高い周辺地盤に合わせて校舎を整備するため、浸水対策に適している			△	・低い周辺地盤に合わせて校舎を整備するため、浸水対策に適していない		
周辺との高低差	○	・敷地内外の高低差を最小限に抑えられ、安全性・利便性が高い ・周辺地盤と配置計画の整合がとれ、造成の負担が少ない			△	・敷地内外の高低差が大きく、安全性・利便性がやや低い ・既存の敷地内高低差を活用出来るため、造成の負担が少ない		
仮設校舎 仮設渡り廊下	○	・既存グラウンドに新設校舎を整備するため、仮設校舎は不要			×	・既存校舎位置に改築するため、規模の大きい仮設校舎が必要		
概略工程表	R9年度 R10年度 R11年度 R12年度 R13年度 R14年度 R15年度 R16年度 フェーズ1 7ヶ月 既存プール解体 フェーズ2 24ヶ月 新設校舎建設 フェーズ3 12ヶ月 既存校舎・既存屋運解体 フェーズ4 18ヶ月 グラウンド整備 新設校舎使用開始 12ヶ月 グラウンド不使用期間 5年1ヶ月				R9年度 R10年度 R11年度 R12年度 R13年度 R14年度 R15年度 R16年度 フェーズ1 7ヶ月 既存プール解体 フェーズ2 8ヶ月 既存校舎・仮設渡り廊下建設 フェーズ3 9ヶ月 既存校舎解体 フェーズ4 24ヶ月 新設校舎建設 フェーズ5 12ヶ月 既存屋運・仮設校舎・仮設渡り廊下解体 新設校舎使用開始 12ヶ月 グラウンド整備 18ヶ月 グラウンド不使用期間 6年7ヶ月			

■配置計画案

A案(校舎・屋運同時建設案)

①多様な使い方ができる昇降口前スペース

- ・送迎者の待機スペース
- ・課外授業スペース
- ・遠足時の一時待機スペース
- ・宿泊学習時、バスの一時待機場所等として活用可能

②安心安全な児童の通学動線と歩車分離

- ・歩道沿いに空地を整備し、歩道を拡幅
通行できる幅：(現)約1m→(改)約3.4m
- ・校舎までの動線は、歩行者と車両が交差しないよう整備

③ゆとりある駐車スペース

- ・十分な数の駐車スペースを確保

④魅力ある室内開放空間の創出

【エントランスホール】
吹抜け階段の奥に中庭が覗く開放的で気持ちの良い空間
(※P.04 内観イメージ図参照)

【図書室・多目的室】
壁面に可動間仕切りを採用
図書室と多目的室の一体的な活用が可能
・図書館の本を使い、多目的室でグループ学習・発表
・コミュニティスクール活動 等

⑤学校と連携しやすい児童会館の配置

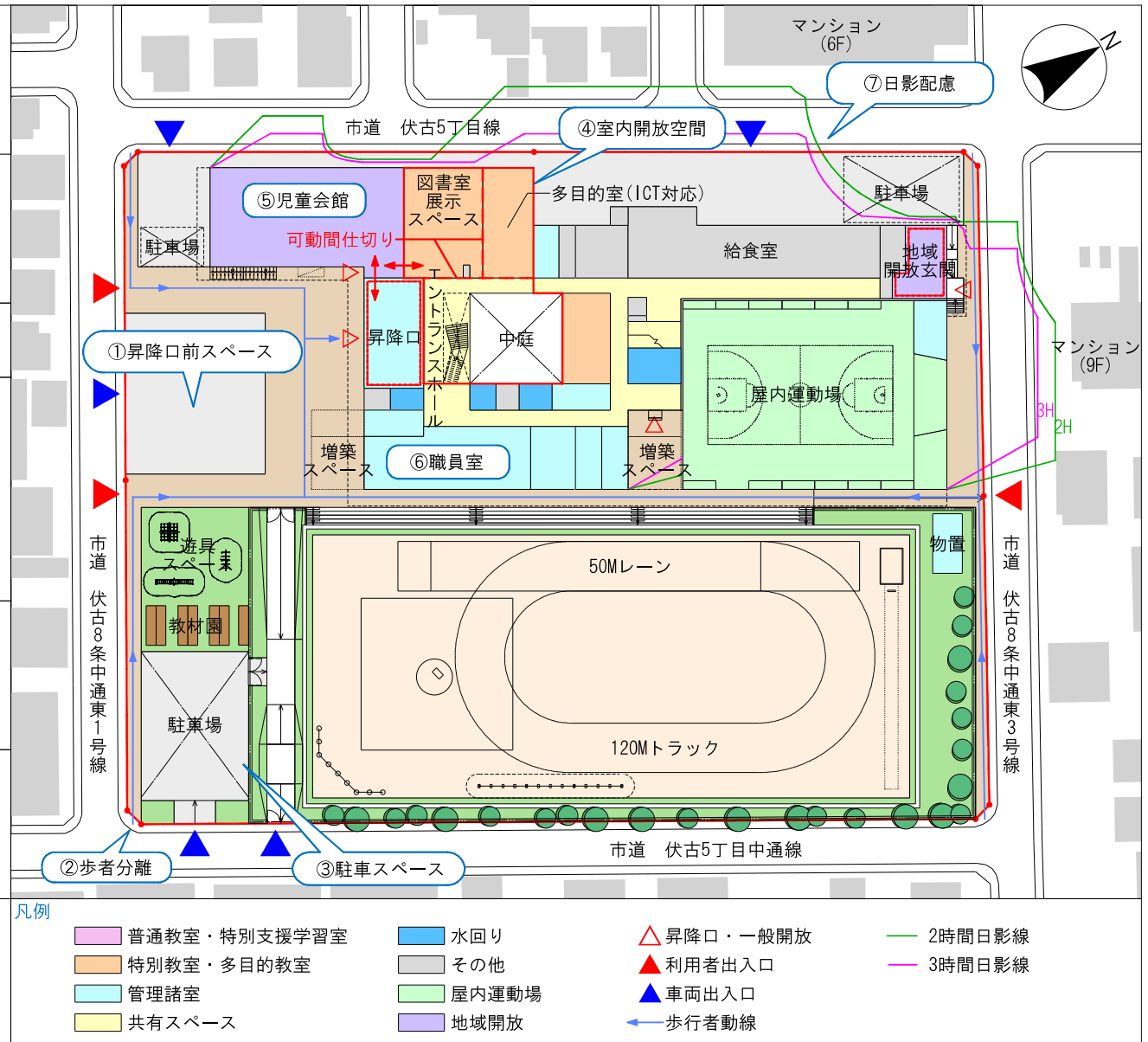
- ・昇降口を近接→靴の移動を円滑化
児童会館出入口と昇降口を内部で往来可能
- ・図書室・多目的室を近接→容易に図書館の共用が可能

⑥機能的な職員室の配置

- ・職員室を1階に配置することで、昇降口、グラウンド、遊具スペースが一望でき、安心安全に配慮した見守りが可能
- ・職員室周囲に保健室等の管理諸室を配置して集約し、各諸室との連携を効率化

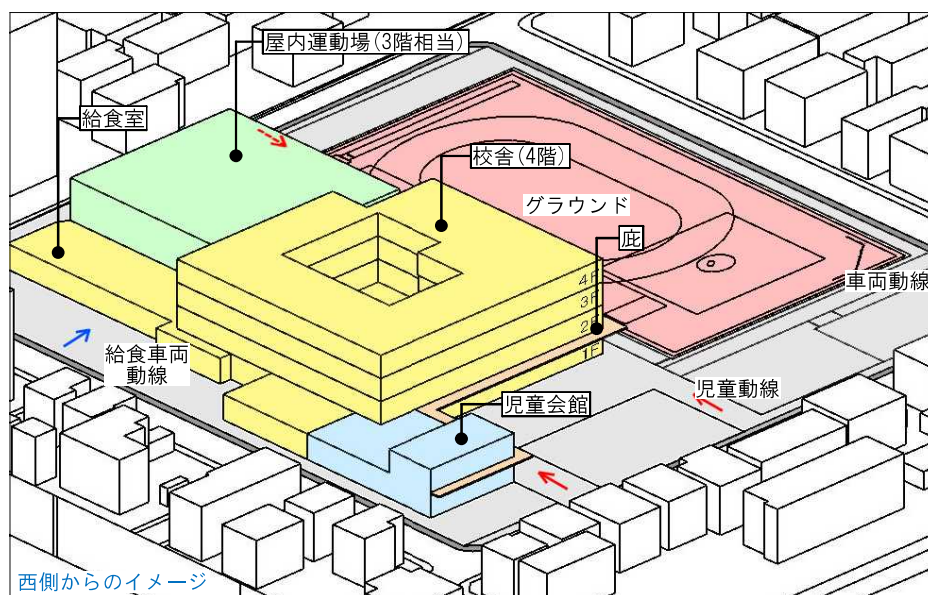
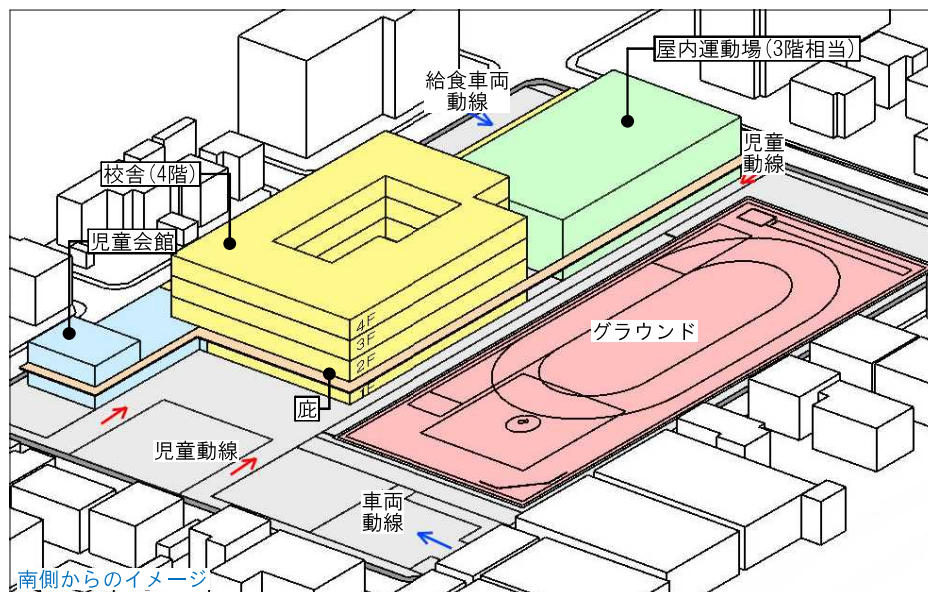
⑦周辺への日影の配慮

- 日影の影響が大きい北・北西側に配慮した計画
- ・北側：給食室エリアを敷地境界からセットバックさせて配置
- ・北西側：児童会館、図書室等のエリアは、高さを抑制



■完成イメージ図

A案(校舎・屋運同時建設案)



■内観イメージ図

エントランスホール

